

「大村湾の環境保全・活性化」に関するアンケート調査

調査目的 : 県では、平成31年3月に策定した「第4期大村湾環境保全・活性化行動計画」に基づき、『みらいにつなぐ“宝の海”大村湾』の実現を目指し、「森里川海が一体となった里海づくり」「みんなで取り組む賑わいのある里海づくり」に向けて、各種施策に取り組んでいます。

第4期行動計画については令和7年度中に見直す予定であり、このアンケートは、これまでの各種取組の状況や県民の意識などを把握し、新たに必要となる取組など、計画の見直しに反映することを目的に行うものです。

調査期間 : 令和6年1月24日～2月7日（15日間）

調査対象 : ながさきWEB県政アンケート全モニター（334名）

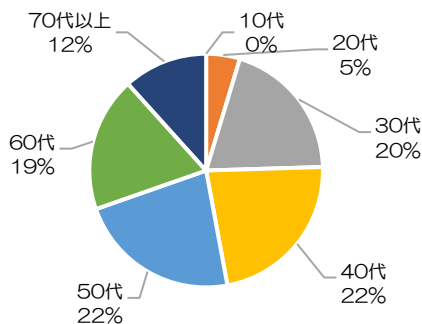
回答状況 : 回答者257名（回答率77%）

調査担当課 : 県民生活環境部 地域環境課

※ 結果集計上、合計が100%にならない場合があります。

■回答者の属性

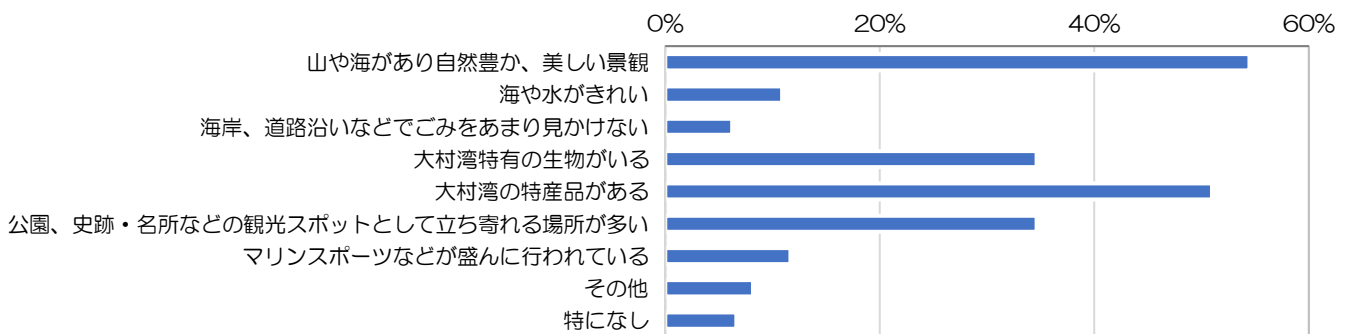
【年齢構成比率】



区分	人数	構成比
10代	0	0%
20代	12	5%
30代	51	20%
40代	58	22%
50代	58	22%
60代	48	19%
70代以上	30	12%
合計	257	100%

Q1. 大村湾及びその流域には、どのような魅力があると思いますか。

【最大3つまで】



選択肢	回答数	構成比
山や海があり自然豊か、美しい景観	140	54%
海や水がきれい	28	11%
海岸、道路沿いなどでごみをあまり見かけない	16	6%
大村湾特有の生物がいる	89	35%
大村湾の特産品がある	131	51%
公園、史跡・名所などの観光スポットとして立ち寄れる場所が多い	89	35%
マリンスポーツなどが盛んに行われている	30	12%
その他	21	8%
特になし	17	7%
合計	561	-

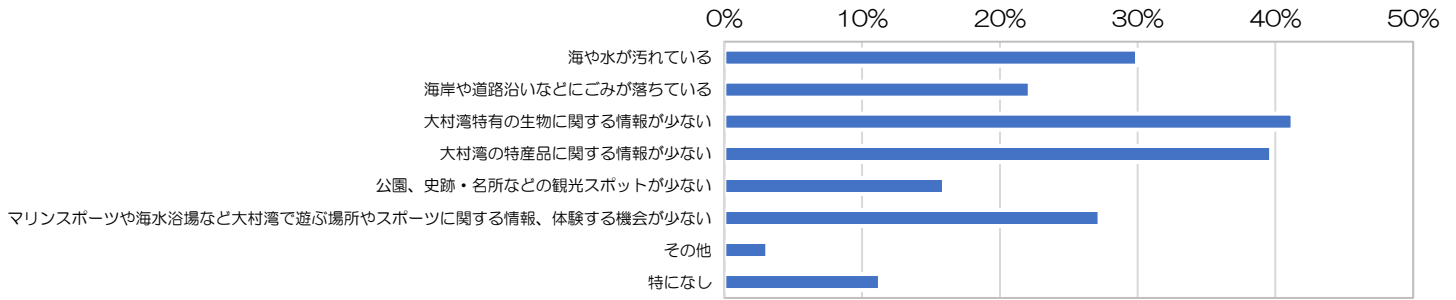
<その他の主な回答>

- ・ 長崎空港。
- ・ しけないので穏やか、波が静かで海水浴で危なくない。
- ・ 海岸線に沿った道路からの眺めが良くきれい、ドライブで一周できる。
- ・ 大村線の電車や駅からの景観が良い。
- ・ ハウステンボス、ボートレース場。
- ・ なまこ。

※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

Q2. 大村湾及びその流域には、どのような課題があると思いますか。

【最大3つまで】



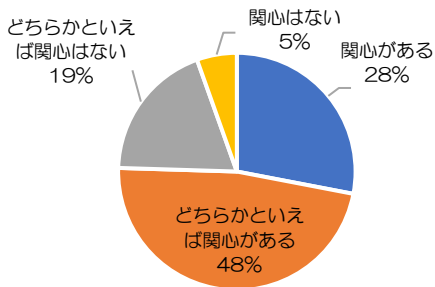
選択肢	回答数	構成比
海や水が汚れている	77	30%
海岸や道路沿いなどにごみが落ちている	57	22%
大村湾特有の生物に関する情報が少ない	106	41%
大村湾の特産品に関する情報が少ない	102	40%
公園、史跡・名所などの観光スポットが少ない	41	16%
マリンスポーツや海水浴場など大村湾で遊ぶ場所やスポーツに関する情報、体験する機会が少ない	70	27%
その他	8	3%
特になし	29	11%
合計	490	-

※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

＜その他の主な回答＞

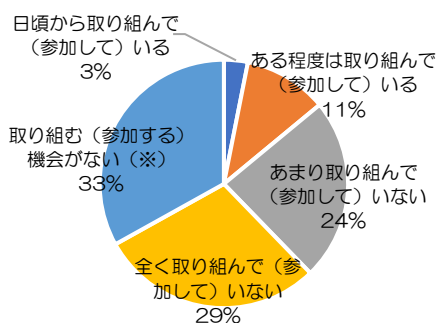
- ・ 大村湾沿いにはたくさん住宅があるので生活用水で海が汚れるのではないか気になる。
- ・ 生活の下水を流す地域もあるので、汚れを流さない仕組みを作ることが大切だと思う。
- ・ 道が狭く、反対側は崖崩れが起きそうで怖い。
- ・ 車が渋滞する。
- ・ リゾート化に力を入れた方が良い。
- ・ 長期滞在施設など県外からの観光客向けの宿泊先を充実させたら良いと思う。
- ・ 日常的に大村湾に関する情報に接することがなく解答が難しい。

Q3. 大村湾及びその流域での環境保全や活性化の取組について関心がありますか。



選択肢	回答者数	構成比
関心がある	72	28%
どちらかといえば関心がある	122	48%
どちらかといえば関心はない	49	19%
関心はない	14	5%
合計	257	100%

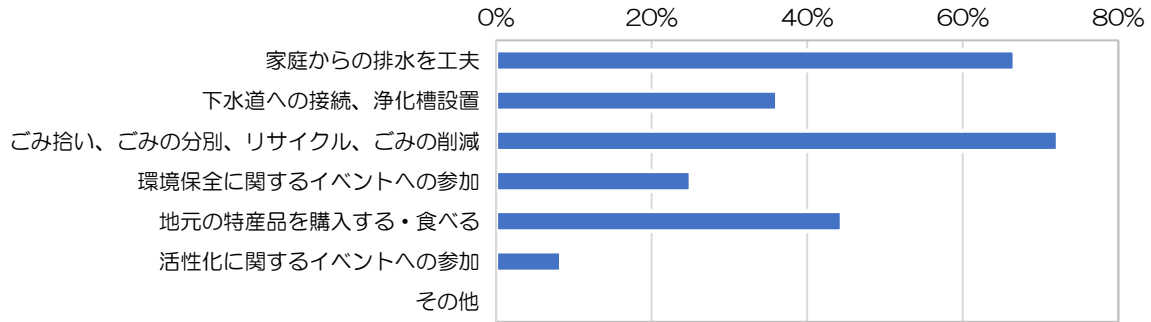
Q4. 大村湾及びその流域での環境保全や活性化の取組について、どの程度取り組んでいますか。



選択肢	回答者数	構成比
日頃から取り組んで（参加して）いる	8	3%
ある程度は取り組んで（参加して）いる	28	11%
あまり取り組んで（参加して）いない	61	24%
全く取り組んで（参加して）いない	75	29%
取り組む（参加する）機会がない（※） （※大村湾流域に住んでいないまたは大村湾流域を訪問する機会がない方）	85	33%
合計	257	100%

Q5. Q4の取組として、具体的にはどのような取組を行って（参加して）いますか。

【複数回答可】

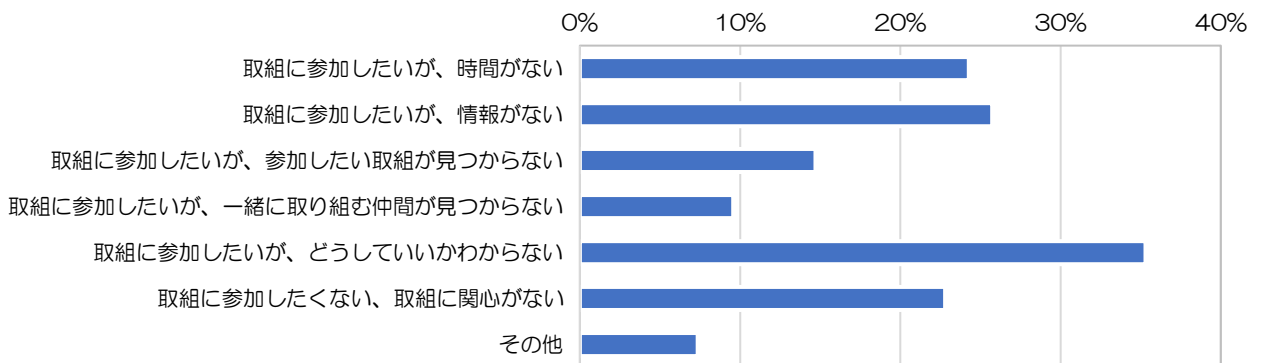


選択肢	回答数	構成比
家庭からの排水を工夫	24	67%
下水道への接続、浄化槽設置	13	36%
ごみ拾い、ごみの分別、リサイクル、ごみの削減	26	72%
環境保全に関するイベントへの参加	9	25%
地元の特産品を購入する・食べる	16	44%
活性化に関するイベントへの参加	3	8%
その他	0	0%
合計	91	-

※ 構成比は回答者数（36）に対する割合

Q6. Q4に関する取組を行って（参加して）いない理由に近いのは次のうちどれですか。

【複数回答可】



選択肢	回答数	構成比
取組に参加したいが、時間がない	33	24%
取組に参加したいが、情報がない	35	26%
取組に参加したいが、参加したい取組が見つからない	20	15%
取組に参加したいが、一緒に取り組む仲間が見つからない	13	10%
取組に参加したいが、どうしていいかわからない	48	35%
取組に参加したくない、取組に関心がない	31	23%
その他	10	7%
合計	190	-

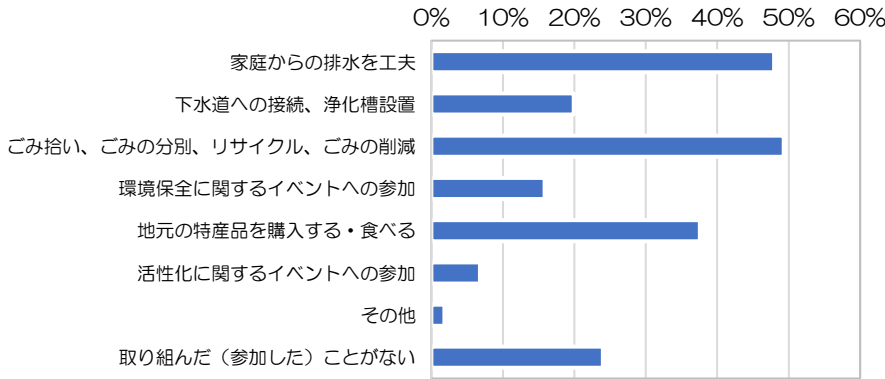
※ 構成比は回答者数（136）に対する割合

<その他の主な回答>

- ・ イベントに子どもと参加したいが、仕事の休みが合わず参加できなかった。
- ・ 環境保全に関心はあり参加したいが、公共交通機関で移動するには距離的に遠方過ぎることが多いので参加できない。
- ・ 参加したくなる取組があるのかわからない。
- ・ 今までその機会に恵まれなかったため、取組について考える機会がなかった。
- ・ 離島在住のため、近くに行ったり、関わったりする機会や情報が少ない。
- ・ （取組に参加）したいとも思っておらず、そもそも取組について知らない。

Q7. その他の海域（大村湾以外）において、Q4のような取組を行ったことがありますか。

【複数回答可】



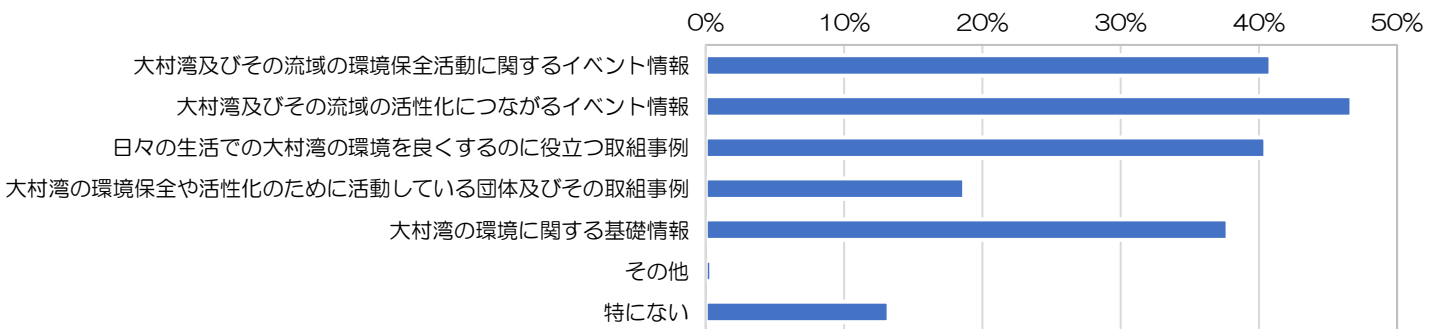
<その他の主な回答>

- ・ 合成洗剤、柔軟剤を使わない。
- ・ 米の研ぎ汁がよくないと聞いたことがあるので、できるだけ無洗米を使うようにしている。
- ・ 地域清掃。
- ・ 海辺に住む生き物観察。

選択肢	回答数	構成比
家庭からの排水を工夫（油分を流さない、お風呂の残り湯を洗濯時に使用など）	106	48%
下水道への接続、浄化槽設置	44	20%
ごみ拾い、ごみの分別、リサイクル、ごみの削減	109	49%
環境保全に関するイベントへの参加（清掃活動、環境学習会、生物調査など）	35	16%
地元の特産品を購入する・食べる	83	38%
活性化に関するイベントへの参加（観光スポット巡り、マリンスポーツ体験、サイクルーシングなど）	15	7%
その他	4	2%
取り組んだ（参加した）ことがない	53	24%
合計	449	-

※ 構成比は回答者数（221）に対する割合

Q8. 環境保全や活性化の取組に関して、今後どのような情報を知りたいですか。【複数回答可】



選択肢	回答数	構成比
大村湾及びその流域の環境保全活動に関するイベント情報	105	41%
大村湾及びその流域の活性化につながるイベント情報	120	47%
日々の生活での大村湾の環境を良くするのに役立つ取組事例	104	40%
大村湾の環境保全や活性化のために活動している団体及びその取組事例	48	19%
大村湾の環境に関する基礎情報	97	38%
その他	1	0%
特にない	34	13%
合計	509	-

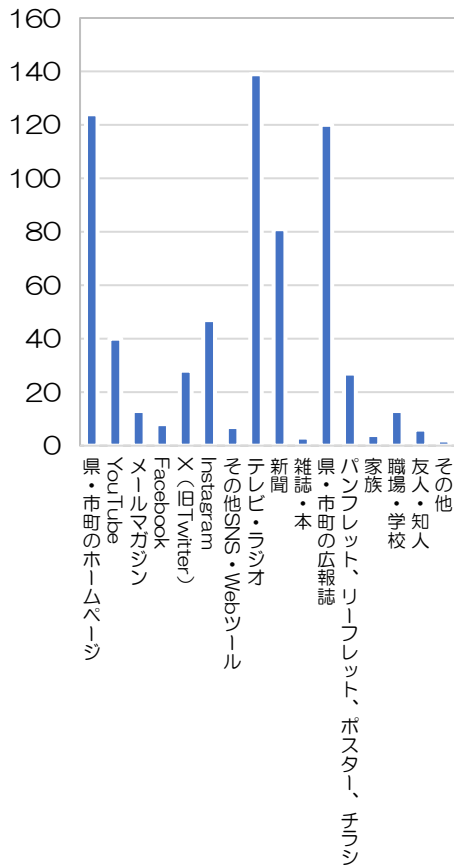
<その他の主な回答>

- ・ 大村湾に限らず、県内の環境保全に関わるシンポジウムや講演会、学習の場をオンラインで開催してほしい。

※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

Q9. Q8に関する情報を入手する際に活用する媒体で特に有効だと思う媒体は何ですか。

【最大3つまで】

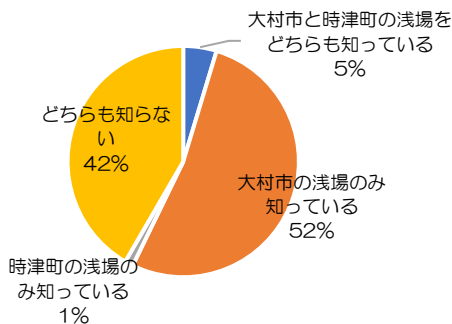


選択肢	回答数	構成比
県・市町のホームページ	124	48%
YouTube	40	16%
メールマガジン	13	5%
Facebook	8	3%
X (旧 Twitter)	28	11%
Instagram	47	18%
その他 SNS・Web ツール	7	3%
テレビ・ラジオ	139	54%
新聞	81	32%
雑誌・本	3	1%
県・市町の広報誌	120	47%
パンフレット、リーフレット、ポスター、チラシ	27	11%
家族	4	2%
職場・学校	13	5%
友人・知人	6	2%
その他	2	1%
合計	662	-

- ＜その他の主な回答＞
- ・ 関連する地域の自治会への情報提供。
 - ・ 全国で行われる海岸清掃活動等に対する全県をあげた参加推進。
 - ・ 地域公民館での関連の講座開催、及び他講座開催の合い間を利用した PR 活動。

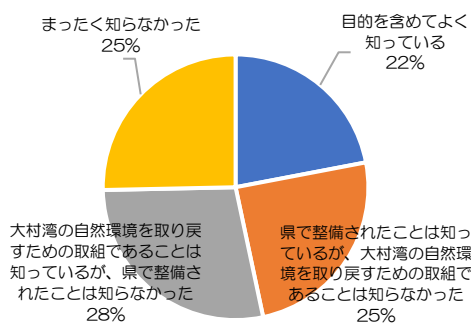
※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

Q10. 大村市及び時津町の沿岸に整備された ” ガラスの砂浜（人工浅場） ” を知っていますか。



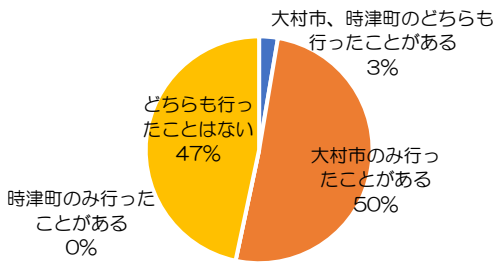
選択肢	回答者数	構成比
大村市と時津町の浅場をどちらも知っている	12	5%
大村市の浅場のみ知っている	135	52%
時津町の浅場のみ知っている	3	1%
どちらも知らない	107	42%
合計	257	100%

Q11. Q10の ” ガラスの砂浜 ” が整備された目的及び県で整備されたことを知っていますか。



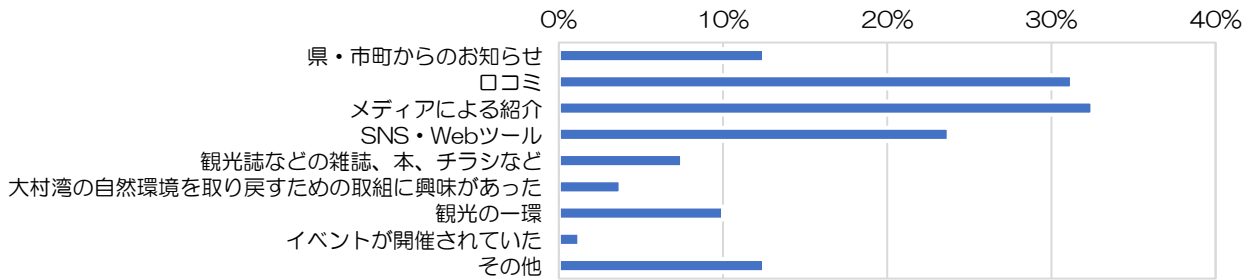
選択肢	回答者数	構成比
目的を含めてよく知っている	33	22%
県で整備されたことは知っているが、大村湾の自然環境を取り戻すための取組であることは知らなかった	37	25%
大村湾の自然環境を取り戻すための取組であることは知っているが、県で整備されたことは知らなかった	42	28%
まったく知らなかった	38	25%
合計	150	100%

Q12. Q10の“ガラスの砂浜”へ行ったことはありますか。



選択肢	回答者数	構成比
大村市、時津町のどちらも行ったことがある	4	3%
大村市のみ行ったことがある	76	50%
時津町のみ行ったことがある	0	0%
どちらも行ったことはない	70	47%
合計	150	100%

Q13. どのようなきっかけで、Q10の“ガラスの砂浜”に行きましたか。【複数回答可】



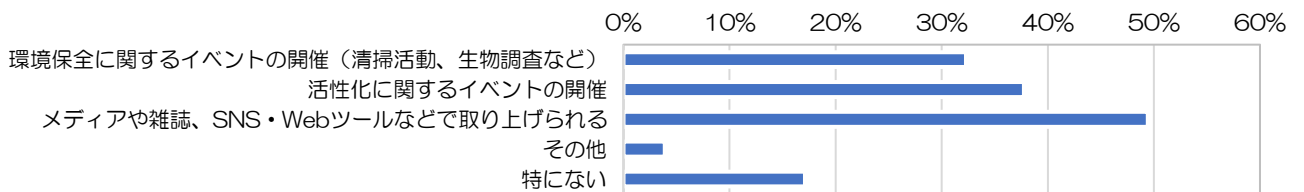
選択肢	回答数	構成比
県・市町からのお知らせ	10	13%
口コミ	25	31%
メディアによる紹介	26	33%
SNS・Webツール	19	24%
観光誌などの雑誌、本、チラシなど	6	8%
大村湾の自然環境を取り戻すための取組に興味があった	3	4%
観光の一環	8	10%
イベントが開催されていた	1	1%
その他	10	13%
合計	108	-

<その他の主な回答>

- ・ 元々遊びに行っていたところから。
- ・ 自宅の近くで、散歩のコースだから。
- ・ 長崎空港へ向かう途中に見えた、行ったついでに立ち寄ったから。
- ・ 東京在住の家族からおしえてもらったから。
- ・ 森園公園で遊んでいる時に、友達に「ガラスの砂浜があるよ」と誘われたから。
- ・ フィールドワークの場所だったから。
- ・ 偶然。

※ 構成比は回答者数（80）に対する割合

Q14. どのようなきっかけがあればQ10の“ガラスの砂浜”に行きたいと思いますか。【複数回答可】



選択肢	回答数	構成比
環境保全に関するイベントの開催（清掃活動、生物調査など）	83	32%
活性化に関するイベントの開催	97	38%
メディアや雑誌、SNS・Webツールなどで取り上げられる	127	49%
その他	10	4%
特にない	44	17%
合計	361	-

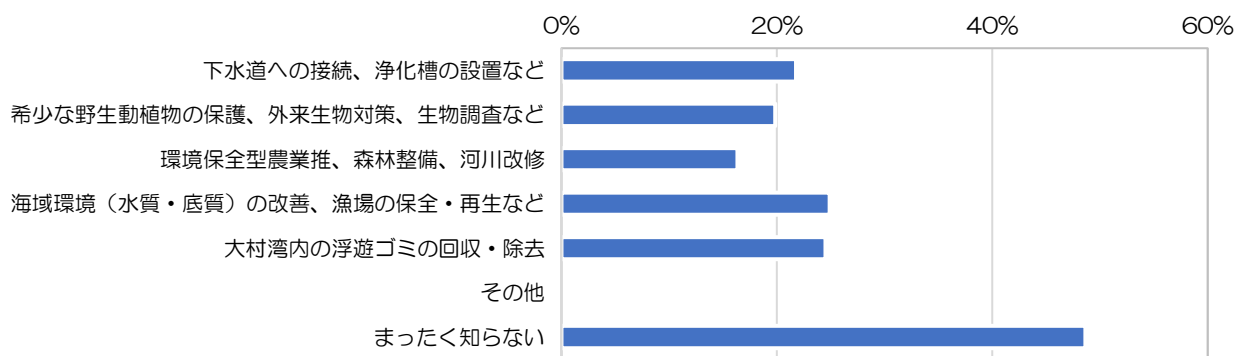
<その他の主な回答>

- ・ 案内の看板などあれば寄ってみたい。
- ・ 今回のアンケートに回答することで、行きたくなった。
- ・ 長崎空港を利用する際に時間を作って行ってみたい。
- ・ 離島から行くことは難しい。
- ・ いきたいと思うが、足が悪くいけそうにない。
- ・ 遠いため公共交通機関等が無料・安くなる場合など金銭的な負担が少ない場合であれば行ってみたい。
- ・ 他の駅がCMになっているように、タレント著名人の方の起用が一番話題性があると思う。

※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

Q15. 「森里川海が一体となった里海づくり」に関して知っている取組はありますか。

【複数回答可】

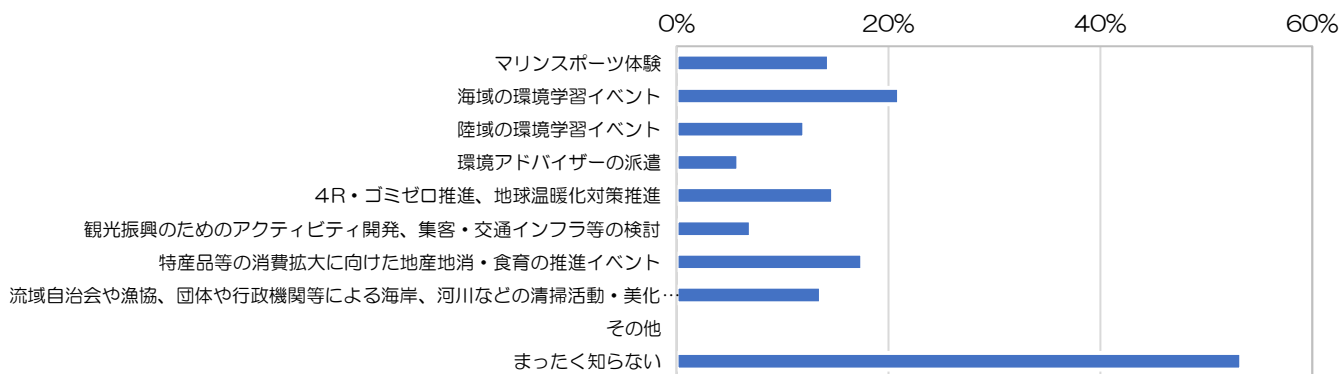


選択肢	回答数	構成比
下水道への接続、浄化槽の設置など	56	22%
希少な野生動植物の保護、外来生物対策、生物調査など	51	20%
環境保全型農業推、森林整備、河川改修	42	16%
海域環境（水質・底質）の改善、漁場の保全・再生など	64	25%
大村湾内の浮遊ゴミの回収・除去	63	25%
その他	0	0%
まったく知らない	125	49%
合計	401	-

※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

Q16. 「みんなで取り組む賑わいのある里海づくり」に関して知っている取組はありますか。

【複数回答可】



選択肢	回答数	構成比
マリンスポーツ体験	37	14%
海域の環境学習イベント	54	21%
陸域の環境学習イベント	31	12%
環境アドバイザーの派遣	15	6%
4R・ゴミゼロ推進、地球温暖化対策推進	38	15%
観光振興のためのアクティビティ開発、集客・交通インフラ等の検討	18	7%
特産品等の消費拡大に向けた地産地消・食育の推進イベント	45	18%
流域自治会や漁協、団体や行政機関等による海岸、河川などの清掃活動・美化活動	35	14%
その他	0	0%
まったく知らない	137	53%
合計	410	-

※ 構成比は回答者数（257）に対する割合

Q17. 大村湾の環境保全及び流域の活性化に関する取組として、県が特に行うべき取組は何だと 思いますか。

<主なご意見（一部要約）> 回答者数：257名

- ・ 大村湾の現状について知らない、耳にする機会がないと感じる方や、大村湾についてこのアンケートで初見であり、周知・PR不足だと感じる方もいると思う。そのため、まずは大村湾流域住民あるいは関係者等に対して大村湾について知ってもらおう機会をつくり、大村湾の認知度の向上に努める。
- ・ 大村湾のことは大村市民の方のみ関係するといったイメージを持たれる方もいることから、大村湾の現状や取組などの情報等について、大村湾流域に限らず、遠方や直接関与していない県民などにも広く周知を図るべく、県内全域に向けた情報発信、周知啓発を積極的に行う。
- ・ 大村湾について身近に感じていない、馴染みがない、魅力に感じてないと思う県民の方もおり、大村湾流域住民あるいは関係者等しか知らない状況では、大村湾の活性化は難しいと思われることから、大村湾に関する取組の必要性を広めるとともに、取組に対する関心を促し、取組を浸透させる。
- ・ 情報発信・拡散、周知・PR等の各種活動について、工夫・検証を重ね、広報活動をより活発化していく。
- ・ 県の広報誌や、テレビやラジオ、インターネット、新聞等のメディアを用いた情報発信により幅広く周知を図るとともに、様々な媒体を介して繰り返し大村湾について広報を行う。
- ・ 若者や県外の方々にも大村湾に興味を持ってもらえるように、InstagramといったSNSなどを活用し、大村湾の特産物の紹介や取組参加への呼びかけなどを行う。
- ・ 長崎に関係する著名人や長崎県出身のタレントさんなどを起用し、メディア配信を行う。
- ・ 情報発信・周知啓発等の内容としては、「大村湾の特徴や独自性、現状、環境問題や課題（一度汚染してしまつとなかなか元にもどせない閉鎖性海域）。地区別水質状況や水質汚染状況などの環境数値や過去との比較。水産生物の実態や過去との比較。県民に対する大村湾の重要性に関する情報。普段から家庭でできる取組。県の取組や活動状況。その他様々な取組の現状や成果（メリットや改善点）。物質循環機能を適切に保ち、豊かで多様な生態系と自然環境の保全への取組とそれらの次代への継承。これからの取組や今後の見通し。」などがある。
- ・ （県が）主体性を持って市町と積極的に連携し、各自治体や学校などを巻き込んだ活動を行い、大村湾の活性化を図っていく（例えば、地元の保育園や幼稚園、小学校などの学校の授業や活動の一環として海域学習などを行うことや、学校行事や町内会などで、生き物調査、水泳、ヨットやボート遊びなどの体験を行うことで、子どもたちが大村湾について学習する機会を醸成する）。
- ・ 幼少期の頃から大村湾に感心や親しみを持つようなイベントや取組を企画する。また、親子などで一緒に参加したり、一緒に考えたりするきっかけとなるような楽しいイベント企画し、子どもたちや子育て世代へのアピールを行う。
- ・ 流域地域との連携により、地域住民による自然を守る意識づけや意識を変えるような取組、県民の協力を得るための県民参加型の協働活動の機会を醸成するとともに、その活動の企画、サポートなどを行う。
- ・ 環境保全及び流域の活性化に関連する取組を行っているボランティア団体、NPO法人や民間団体等との連携及びそれら活動への財政的な助成や支援を行う。
- ・ 大村湾の美しさを県民が誇りに思うことで県民の定住化、観光への活性化のPRにつなげる。
- ・ イベント・取組の内容としては、「大村湾についてより多くの方々に認知され、関心が持てること。大村湾から離れた場所に住む県民が大村湾の美しさを知ることができること。環境保全の日などを設定し、県民の意識向上につながる。穏やかで美しい海を守るために必要なことへ理解を深めること。県民が参加しやすい県民参加型イベント。清掃活動などのボランティア活動、ゴミ拾いイベント等。海と接する機会づくりの一環とした海域の環境学習会（海の生物調査、稚魚放流、海ごみ講座など）。環境アドバイザーによるセミナー開催。大村湾の魚のPRや魚を食べるイベント。大村湾周辺の農産物などの販売。大村湾の特産品などの推奨。ツアー見学や環境系フェス、海辺でお祭り、マリンスポーツなどの体験型イベント。

イベント+スポーツ（バスケ、サッカー）などの選手参加型イベント。大村湾の活性化プロジェクトの募集や助成。」などがある。なお、例えば“大村湾デー”と称し、それぞれのイベントをまとめて大々的に行うことで、参加する側としても日程が組みやすい。

- ・ 観光振興を目的として、アクティビティ開発、観光の目的地となる施設やスポットの整備・維持管理、集客の検討、交通インフラの検討・整備（空港や鉄道への活用、娯楽施設や動物園、夕日の綺麗な駅、桜のきれいな公園などへのルート整備など）、環境整備（農業排水の整備による川や海的环境保護、森林保全、自然公園の整備など）などに取り組む。
- ・ 『ガラスの砂浜』に関して「空港や駅からのアクセスがない。より整備し、きれいにすべき。見た目や安全性について知りたい。」といった意見への対応。また、『ガラスの砂浜』といった観光にも環境にもいいスポットなどを新たに整備することで、環境に対する関心の向上につなげる。
- ・ 県民や流域自治会、漁協、団体、行政機関等が協力し、大村湾の海岸・沿岸や河川、周辺などの清掃活動や美化活動を実施する。
- ・ ゴミゼロ運動、ゴミ拾い活動、4Rへの取組といった各種取組の推進。
- ・ 地域住民の方に対し、環境美化に対する情報発信や周知・啓発、呼びかけなどを行う（大村湾に様々なゴミが流れ込まないようにすること、不法投棄をしないこと、ゴミを拾うこと、日頃からなるべくごみ等を出さないこと、ゴミの減量化など）。
- ・ 大村湾内の浮遊ゴミの回収・除去を委託により実施する。
- ・ 生活排水対策の実施（合成洗剤・柔軟剤を極力使用しない、下水道の整備促進、大村湾沿岸地域の生活排水の規制など）。
- ・ 家庭ゴミ等の不法投棄防止策などによるゴミの削減。
- ・ 水質保全、水質改善・浄化の取組、排水の監視及び、水質浄化作用を有する生物の活用（海藻類、甲殻類など）。
- ・ 水辺周辺に植物を増やし、生物が元気に育つ海、遊びに行きたくなるような海を整備。
- ・ 観光用に整備等をしてしまうと環境にも影響を及ぼしかねないので、生物調査等から得た知識などを参考に環境についても考える。
- ・ 海域環境（水質・底質）の改善・保全や、漁場の保全・再生など（ナマコ、カサゴ、ヒラメなどの稚魚放流、外来生物の駆除、海底耕うん、藻場・干潟の保全・再生・創出など）。
- ・ 漁業者への支援、後継者を作る仕組みづくり。

Q18. 今後、“県以外”の様々な主体においてどのような取組が必要だと思いますか。

＜主なご意見（一部要約）＞ 回答者数：257名

- ・ 大村湾の現状を知り、自分たちにできる取組を考え、実行する。その際、大村湾沿いに住んでいる方々の意見等を聞くとともに、他の自治体の取組も研究することで、今後の参考とする。
- ・ 大村湾の環境を守りつつ、上手く開発も進めることで、大村湾をきれいにし、より活性化するような取組を行う。
- ・ 大村湾の良さや美しさといった魅力、大村湾が宝の海や里海という位置付けにあることなどを積極的に発信し、大村湾の認知度を高める。
- ・ 「このようなアンケートがあるまで大村湾、他の流域への取組を知らなかった、具体的には何をどうして良いかわからない」といった意見もあることから、まずは当事者である県民へのアプローチを行い、県民一人ひとりが大村湾の重要性を理解するよう、広く県民に周知する。なお、大村湾に面していない地域の方々はあまり大村湾に関心がないと思うことから、自身との関係性について知る機会を設ける。
- ・ 県民に広く活動内容をお知らせし、そこから九州地区への周知を図り、さらには国民一人ひとりが知識を持てるように広めていくことで、個人各々の環境保全意識の向上につなげる。
- ・ 大村湾の独自性、海洋の環境問題（一度汚染してしまうとなかなか元にもどせない閉鎖性海域）、海産物への影響、自然は公共財という認識のもとでの取組や、今後取組ないことによるデメリットを示す。

- ・ 県の取組や県が県民に求めていることなどについて提示する。
- ・ 海から見た街の景観を保つために、大村湾への関心を向けるような意識づけを県民に浸透させる。
- ・ 様々な媒体で情報発信、広報、宣伝、PR 活動に取り組むことで、より多くの方が目にする機会を増やす（SNS やメディア（テレビ・新聞・雑誌・ラジオでの紹介など）の活用、ポスター等の掲示、学校活動や自治体広報誌、大村湾巡りとして観光案内への追加、普段立ち寄る場所での取組や参加型イベント等の案内など）。また、情報発信やPR を根気よく取り組む。
- ・ 情報過多な現代では深く掘り下げた話題よりも意外性や話題性のある写真や動画が拡散しやすいことから、より効果的な取組の検討が必要。
- ・ 流域市町や流域住民の方々との連携やコミュニケーションを構築し、環境保全の取組においてできることから協働で取り組む。
- ・ 県や流域市町が、大村湾の特徴や特産物、立地を生かした取組などを個々で行うのではなく、大村湾流域の自治体全体で連携を図り、地域住民やボランティアなども参画可能なネットワークを構築し、情報共有を行うことで、大村湾のポテンシャルをあげるような取組を考える。
- ・ 国や他の自治体と共にフォーラムや交流会、講演会、講習会を開催し、メディア等により大村湾について周知を図ることで、関係者が協力し合えるような機会を設ける。
- ・ 子どもの頃から地元の大村湾に親しみを持ってもらうよう、環境問題や活性化についての学習や活動への参加、自分達で企画するといった大村湾を身近に感じる機会を設ける。
- ・ 地元学校（保育園、幼稚園から高校まで）の教育の一環として、大村湾の里海・里山づくりに関する学習（活動）の機会を醸成することや、県内の学校に資料などを配布することで、家庭における伝播も期待できると考える。
- ・ 日常生活から貢献できることがあることについて、県民ひとりひとりが理解し、それぞれの地域において大村湾を大事にする取組について考える機会をつくる。
- ・ 地元住民や NPO、民間団体の方々などの熱意を汲み取り、話し合いの場や各種取組に気軽に参加できるような環境をつくり、流域連携や協働取組につなげる。
- ・ 地域における幅広い世代の地域住民を巻き込み、地域コミュニティーが取り組めるような魅力的な取組を行い、里海づくりとする。
- ・ 農協や漁協、飲食店と一緒に参加できるようなイベントを企画し、開催する。
- ・ 森林保全や里山の維持管理に関して活動しているの方々や、地域の自治体活動に取り組んでいる方々の取組の紹介。
- ・ 企業等において環境への関心を高め、SDGs など自主的な活動を促進する。
- ・ 官民連携した事業及び食育教育を今以上に行っていく（例えば、海の日などに大村湾の海産物などを販売するとともに、海をきれいにする様々な活動を知ってもらうための展示を行うなど）。
- ・ 観光推進（湾内クルーズなど）、ゴミゼロ推進、地球温暖化対策推進などの各種推進体制の確立。
- ・ 大村湾を身近に感じられ、県民が気軽に参加できるような県民参加型のイベントを開催し、大村湾の魅力を広げていく。
- ・ 県内外から大村湾への観光客を増やす取組として、ゴミ拾いをゲーム化することで楽しめるレジャーや、有名アニメのシーンに「キレイな大村湾」を入れてもらい聖地巡礼を兼ねた美化イベント、マリンスポーツ大会や釣り大会等のイベントを開催し、参加を促すことで、地域振興を図る。
- ・ 他の自治体の事例を参考とし、大村湾全体を観光資源とした大きな視野でプロジェクトを検討する（例えば、“宝の海”と名付けた海辺の空間を整備し、県内外からも気軽に立ち寄れるような魅力的な空間を生み出す。または、映画・ドラマ・テレビ・アニメなどの舞台利用の促進し、ロケ地や聖地となるよう働きかける。大村湾沿いの海の道の駅などで人々が集う観光環境を整備する。など）。
- ・ 空港へのアクセスルートの更なる活用を検討する。
- ・ 『ガラスの砂浜』に関して、若い世代にも魅力的だと思うので、SNS での発信や、写真スポットを作るなど、観光を含め県外に向けたPR を行う。併せて、気軽に見に行けるような取組も行う。

- ・ 大村湾への流入する河川を管理している自治体には、森林整備、河川整備を充実させて、自然の水をより清らかなものとしてほしい。
- ・ 大村湾特産品に関して、情報発信、宣伝、PRするとともに、イベントを開催する（レストラン等で大村産の食材用いた料理提供、スーパー等での大村湾産品のキャンペーン等）。
- ・ 大村湾特産品の販売経路拡大や情報発信方法について検討・改善する。
- ・ 大村湾では真珠の養殖も有名であることから、若い人でも手軽に身につけられるアクセサリとしての売り出しや、お土産とする。
- ・ 清掃活動の実施及びその周知（流域市町の自治会単位での清掃活動、沿岸及び地域住民総参加の海岸清掃活動、地域ごとに海岸のボランティア清掃活動など）。
- ・ 普段から安易な気持ちでゴミボックスやゴミステーション以外の場所にポイ捨てしない、させないための注意喚起の看板を立てる。
- ・ ゴミを捨てない、極力出さない、ゴミの持ち帰りなどについて徹底して注意喚起するとともに、ゴミの回収、分別、リサイクルなど環境美化・保全について考えて行動することで、海へのごみの流入を防ぐことにつながる。
- ・ 下水道では処理出来ない汚水等が大村湾に流れ込むと大村湾の負担となることから、環境負荷低減につながるような各家庭ができる取組を実施する（下水道への接続・整備の促進、浄化槽の設置などによる生活排水の垂れ流し防止）。
- ・ 家庭からの台所排水のディスポーザーによる処理、生ごみ処理機の無償化など、各種取組の推進。
- ・ 地区別の水質状況の開示し、水質改善に努めるとともに、流域ごとの水質マップや生物マップ等を作成する。
- ・ 生物調査している方の講話や講演会を設け、環境について考える機会をつくる。
- ・ 密漁対策を強化する。

今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。